

事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 2年 1月 15日

公表：令和 2年 3月 25日

事業所名 子ども発達支援センター桃っこ

		チェック項目	はい	いいえ	改善項目、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		屋内、屋外ともにのびのびとした空間がある。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		利用者に応じて、必要人数を配置している。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか	○		療育を行う上で、必要のないバリアは除かれている。母子通園のため、情報伝達は保護者と行われている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		必要のないものは除き、心地よくのびのびと過ごせるように心がけている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		定期的にスタッフ会議を行っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		母子通園のため、日常的にコミュニケーションが図れている。保護者からの聞き取りをする時間を設けている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		監査を受け、スタッフで協議し、改善に繋げている。
適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		年間で研修の計画を立てている。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者からの聞き取りをし、スタッフ会議にて多面的に分析した上で、作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの『児童発達支援の提供すべき支援』の『発達支援』、『家族支援』、『地域支援』で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		スタッフ間で計画を共有するとともに、必要に応じ、スタッフ会議で相談している。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		スタッフ間で検討するとともに関係先とも相談している。

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	子どもの様子を見て、臨機応変に対応している。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○	子どもが集団活動している場も共有しているため、個別、集団の組み合わせに対応しやすく、状況に応じ計画を作成できている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	利用日は毎朝チームにて打ち合わせをしている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○	その日の振り返りを行うとともに、スタッフ会議でも話し合いをしている。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	必ず療育日誌を利用日に記入している。スタッフ会議では議事録を作成している。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	定期的なモニタリングをし、チーム会議にて見直しの必要性を検討している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	必要な情報を共有し、連携を図っている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	必要な情報を共有し、スムーズに移行できるよう支援している。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	上記同様。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	関係者会議に参加している。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	併設の保育園の子ども達とリズム等の日々の遊びや給食を通して交流し、一緒に活動する機会がある。
	㉙	(自立支援) 競技会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	母子通園のため、日頃から保護者とコミュニケーションを図りやすく、共通理解を持てるよう努めている。

	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っているか	○	随時、保護者の相談にのっている。また、保護者対象の勉強会を開催している。
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	利用開始時に十分な時間をとり説明をしている。
	③③	児童発達支援ガイドラインの『児童発達支援の提供すべき支援』のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された『児童発達支援計画』を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	
	③④	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	随時、相談に応じるとともに、定期的に保護者から聞き取りを行っている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	月に1回茶話会を開催し、連携を支援している。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	相談等があった場合、可能な限り速やかに対応している。また、それをスタッフ会議でも検討、情報の共有をしている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	定期的なお便りを発行している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	個々に応じた配慮をするよう努めている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	
	非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	
④③		事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	支援開始前の、聞き取り調査にて確認している。
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	支援開始前の聞き取り調査をし、アレルギーの有無、医師の指示を確認している。
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	事例集を作成すると、スタッフ会議にて事例を検討している。
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	スタッフの研修を行っている。
④⑦		どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。